

令和7年（2025年）1月15日外部評価実施
千里地域包括支援センター（北東部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2024年12月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：64,823人（前年12月1日時点 65,286人）

高齢者人口：16,311人（前年12月1日時点 16,300人）

高齢化率：25.16%（前年12月1日時点 24.97%）

【圏域の地域特性】

千里圏域は、豊中市の北東部に位置し、吹田市にまたがる千里ニュータウンとして万博の頃に開発された校区と400年以上の歴史を持つ校区もある圏域となっています。ニュータウンは、還暦を超え、住民の高齢化、建物や街の再整備や土地区画整理事業や集合住宅の建て替えによる高層化住宅へと変化しています。緑も多く整備された景観で交通の便も良い千里に愛着を持ち、住み続けたいと考える住民は多いです。丘陵を開拓しており、坂道や階段が多いこと、建て替えによる景観や生活の変化、重装備なづくりが、高齢者の暮らしに支障をきたす要因となる場合があります。

【医療・介護資源】

圏域内には、急性期病院、回復期病院があり、市内に限らず、多くの住民を機能ごとに受け入れています。近隣センターや個人クリニックの廃止医療機関も見られますが、新規クリニックも充足できており、身近な医療の提供もできています。介護事業所数は、市内でも少ない圏域となっていますが、豊中市全般、箕面市、吹田市など隣接している事業所からの支援も受けやすい環境となっています。地域包括支援センターも医療機関・介護事業所・地域住民からの相談や情報提供を受ける関係性構築に努めており、連携した支援を目指しています。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

- ・豊中市地域包括支援センター運営基本方針に沿って、事業計画を立て取り組みを行います。
- ・「地域包括ケアシステムの構築」を目指し、職員のスキルアップを図り、ネットワーク構築や住民主体の活動をサポートしていきます。

【特に力を入れて活動している点】

「地域包括ケアシステムの構築」の実現に向けて

- ・地域の見守り体制や支援体制を拡充していくために、関係機関に限らず企業や店舗等にも広く出向き、地域支援事業や協力体制について声をかけ、地域包括支援センターの窓口機能をお知らせし、点を増やしながら紡ぎ続けています。
- ・認知症高齢者の支援体制の構築のため、認知症サポーター養成講座の実施、オレンジカフェの開設支援、専門職としての継続支援を行います。認知症サポート医のみならず、地域の医療機関、関係機関、住民とも協働し、必要な医療・介護・福祉・地域へつないでいきます。
- ・介護予防・セルフケアの取り組みの充実に向け、市・千里地域包括支援センター独自の介護予防手帳を用いた普及・啓発を行います。
- ・様々な状況下でも活動の継続ができるようBCP策定をします。

【活動の中での課題やその解決策】

課題：増加する高齢者に対応できる資源が不足しています。

解決策：介護予防の普及・啓発・取り組みで健康寿命促進、セルフケアの習得を図り、専門職と住民とのつながりの中で地域力の向上、自立支援の意識向上や地域共生社会の実現に向かって支援し続けます。

総評

【特徴的な取組内容】

- 圏域内の介護資源に限界が見えてきている中、包括としては、地域共生や自助自立の向上、介護予防の促進を推進することによって、地域で不足する資源を補えるための工夫と努力がなされています。
- 住民の声を基に、「お散歩マップ」の作成と活用、まちあるき報告の作成で、住民主体の活動拡充や意識向上にもつなげられています。まちあるき報告を行う事によって、高齢者の視点に限らない、様々な住民目線での気づきも得られています。
- オレンジカフェの運営では、多職種での連携も踏まえ、かかわる人たちが、自分事として置き換えて考えられる問いかけ、考えるきっかけを作ることによって、理解の促進や意識改革につなげられています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- 介護予防において、潜在的对象者を、どこまで必要に応じた支援対象に組み込んでいくことができるのかの取組みに期待します。